



## 創刊号

Contents

創刊によせて	・狭山市長 仲川 幸成	2
さやま市民大学とは		2
創刊によせて	・さやま市民大学学長 小山 周三 ・NPO法人さやま協働ネット代表理事 毛塚 宏	3
学部リーダー・学科リーダー紹介	・まちづくり学部	4
	・いきがい学部	5
地域連携推進室から	・地域連携推進室について ・シリーズ活躍中! 「SSVC」とは? 「止まり木」とは?	6
TOPICS	・入学式 ・講演会&座談会「消えゆく生活文化の伝承とまちづくり」 ・さやま市民大学同窓会総会と発足記念シンポジウム	7
創刊の主旨 アクセスマップ		8

# さやま市民大学News 創刊！



## さやま市民大学News 創刊によせて 狭山市長 仲川 幸成

狭山市では、市の将来像である「緑と健康で豊かな文化都市」の実現に向けて、「協働の推進」、「子育て支援」、「都市基盤の整備」を重点施策として進めております。

そのうちで「協働の推進」にあっては、各地区まちづくり推進会議が中心となり地域の特色を活かしたまちづくり事業が行われ、また、市民団体等の積極的な活動により、数々の協働事業が立ち上がり、市民の力が結集されてきたところであります。今後とも行政の抱える課題解決に向け、市民・事業者・行政が役割を分担し、協働して取り組んでいくことが重要となってきます。

そこで、本年4月に地域社会を担う人材育成をすすめるため、狭山元気大学と狭山シニア・コミュニティ・カレッジを統合し、新たに「さやま市民大学」を開設しました。これにより、更に市民力の強化が図られ、元気な狭山を築く力となっていくものと大いに期待しております。

さやま市民大学は、2つの市民大学でそれぞれの事業運営に大変ご尽力いただいた市民の皆様が手を取り合い設立した、NPO法人「さやま協働ネット」にその運営を託しており、まさに市民と行政との協働の実践の場といえます。

運営を担うNPO法人、市民スタッフの皆様には、これまでのご尽力に改めて敬意を表するとともに、その経験を活かしていただき、より一層のご活躍をお願いするものです。

また、さやま市民大学の一期生となられた受講生の皆様には、ぜひ大いに学び、仲間と語らい、充実した大学生活を送っていただきたいと思います。そして、修了後には、その学びの成果を活かし、ボランティア活動による地域貢献や仲間を募ってのNPOの立ち上げ、また、市との協働事業の担い手になるなど、まちの活性化につながる活動に取り組み、元気な狭山を築いていただきたいと願っております。

結びに、皆様方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げ、創刊によせての挨拶いたします。



## 学びの場を活かし、 地域の中に新たな居場所をつくろう さやま市民大学 学長 小山 周三

人生には人それぞれの生き方があります。100人100色の生き方があって当然です。みんなが一つのゴールを目指して生きてきた戦後の日本社会は何だったのか。他人と比べて、幸せか、不幸せかを考えても、何の役にも立ちません。自分はこのように生きたいという「想い」、「信念」、「覚悟」のような自覚があれば、誰でも素敵なお人生が送れるはずです。

ご縁があって狭山の市民大学に関わりました。私は大学教育に関わり、これから社会に巣立つ若者教育の現場おりました。社会に飛び込みさえすれば何とかなる、という想いを伝え、彼らの不安を払拭し、「おもてなしリテラシー」があれば人間関係が構築出来、自分の存在が認められる、という人間力を高める教育を優先し、実践してきました。

市民大学は、すでに豊かな社会経験をもつ市民の学びの場です。若い学生たちと違って、何かをやりたいという目的を持って入学し、その実現のために、時間とお金をかけて受講を決意され、学習体験する場です。習い、覚えるための学習ではなく、何かをするための学習体験の場として大いに活用し、年齢に関係なく、自分が必要とする活動領域を開拓して欲しいのです。

地域コミュニティや社会のために役に立てる自分の居場所を見つけたい。このような目的と動機で市民大学を受講する、沢山の真摯な狭山市民と出会ってきました。自分が出来ることで地域や社会と関わり、少しでもお役に立ちたいと願う生き方は素敵です。いま地域社会が一番必要とする「協働人材」あるいは「地域創造人材」そのものと言えます。

人と地域が元気になる、地域コミュニティの幸せづくりをデザインする、その人材づくりに市民大学が関わり、一人でも多くの「地域創造型協働人材」が、この学びの場から巣立ってくれたら、地域のあり方も変わってくると確信しています。地域を支え、実践・行動する活動領域は様々ですが、家庭、会社に次ぐ「第三の居場所づくり」を支援・応援したいと思っています。



## NPO法人さやま協働ネットの役割について NPO法人さやま協働ネット 代表理事 毛塚 宏

NPO法人さやま協働ネットは、2つの事業に取り組むことにしています。その一つが狭山市から受託して運営する「さやま市民大学事業」です。

もうひとつの事業に「まちづくり支援事業」があります。この事業については、本法人が立ち上がったばかりということもあり、事業内容の煮詰めはこれからです。また、NPOが独自に取り組む事業ですから財源の確保も課題です。しかし、今、環境、福祉、子育て、教育、文化などいろいろな分野でまちづくりに関わる事業が展開されていますが、その多くは資金・組織・場所・情報などの面でいろいろな課題を抱えているのも実態です。

こうした状況もふまえながら、今年度は、とりあえず、各方面の方々からまちづくりの課題やニーズについてお伺いしつつ、本NPOが取り組むにふさわしい「まちづくり支援事業」を掘り起こしていくことにしています。

特に、これから到来する縮小社会（人口減や財政難等）も見据えつつ、“住み心地の良い・活力ある狭山”をめざして多様な主体の協働により進めるまちづくり事業や、コミュニティビジネスに結びつく事業に焦点をあてたいと考えています。ぜひ、ご意見やご提案をお寄せ下さい。





## まちづくり学部

まちづくり学部では、狭山を安心して暮らせる豊かなまちに創り上げることに関心があり、講義・実習・ワークショップ・外部視察等の学びを通して、地域コミュニティづくりに参画したい意欲ある方々のための講座を用意しています。修了後は、これまでの修了生が組織する団体や既存の地域団体への参加を含め、お一人お一人の「思い」に沿った活動を応援していくフォローを考えています。



まちづくり学部 学部リーダー 藤原 俊昭

本学部は元気に活力のある街「さやま」を目指す仲間が集まって講座、実技に取り組んでいます、修了後も共に学んだ仲間と力を合わせ、必ずや「まちづくり」に貢献する熱い情熱を持った人達の学部です、皆さんの参加をお待ちしております。



まちづくり担い手養成学科

学科リーダー 草野 喜実勝

新制さやま市民大学の中で、その理念、目的をもっとも端的に実現すべく開設されたのが「まちづくり担い手養成学科」であります。修了生の多くが市民団体、組織の中で「まちづくり」を実践しています。今年度は21名の“担い手”を送り出すことになっています。



健康づくり・介護予防センター養成学科

学科リーダー 穴田 喜久夫

受講生は16名、平均年齢は68歳なるも皆さん若々しく元気はつらつです。すこやか体操、ダンスなど誰でもできる運動、介護予防、認知症等の知識を学び、自分自身の健康維持をります。修了後は狭山市の介護予防事業のサポーターとしての活動を目指しております。



まちのガーデナー養成学科

学科リーダー 小川 洋之

本学科は、園芸の基礎知識やオープンガーデンを学び、花のまちづくりを担う人材の育成と仲間づくりを進めます。そして、コミュニティの活性化や観光などの地場の魅力づくりなど、花のあるおもてなしのまちづくりにつなげます。



パパ・ママのお助け隊養成学科

学科リーダー 石川 まちゑ

不安や悩みを抱える子育て家庭が増える中、「パパ・ママお助け隊養成学科」が開設され、修了生の多くが、狭山市の福祉や子育て支援の現場で活躍しています。今年度は、20代～70代までの幅広い層の受講生25名が、地域で貢献する子育て支援者を目指します。



生涯学習案内人養成学科

学科リーダー 竹野 強一

市民の皆様に、狭山市内のサークル1500余や各種イベント、その他を案内するための案内人を養成する学科です。修了後は生涯学習情報コーナーにて、案内人ボランティア活動をします。



地域の防災リーダー養成学科

学科リーダー 永倉 邦男

本学科は、万一の際に地域を支えるリーダーを養成する講座です。昨年の防災講座では、市内各地域からの参加者を迎え、講義、グループディスカッション、模擬体験等により緊急事態に備えての対応方法を学習していただきました。

## いきがい学部

いきがい学部では、日頃の授業を通して自らの学びを深め、これまでに培ってきた知識や技術の更なる探究を図るとともに、新たな知識の習得を図り、いきがいづくりをすすめます。

また、学習を通して、仲間づくりやコミュニティづくりにも積極的に取り組みます。修了後には、学びの成果を地域活動や学校支援活動などを通じて、地域に還元することを期待しています。



いきがい学部 学部リーダー 橋本 光明

本学部では、自らの学びを深め、新たな知識を修得し、いきがいづくりをすすめます。

また、学習を通して、仲間づくりやコミュニティづくりにも積極的に取り組みます。修了後には、学んだ成果を地域活動や学校支援活動などを通じて、地域に還元することを期待しています。



パソコン学科 入門コース

学科リーダー 戸田 栄敏

選ばれた20人の30代から80代までの幅広い年齢層の皆さん、パソコンと熱心に取り組んでいます。入門コースの講師・学科リーダー・スタッフ全員がパソコン学科出身者で、受講生の皆さんのパソコン操作習得の指導をしています。



パソコン学科 初級、中級Bコース

学科リーダー 荒井 浩二

本学科の受講生は初級15名、中級19名です。初級の皆さんには学びを通した生きがい作りと仲間作りを、中級の皆さんには学んだ成果を生かし地域活動、ボランティア活動への積極的な参加を期待しています。



パソコン学科 中級A、実用コース

学科リーダー 荒木 一晴

多数の応募でしたが中級A18名、実用20名でスタートしました。目標はパソコンを使いこなし情報の収集、趣味に活用し、自治会活動など地域との結びつきも考えています。



英会話学科 初級、中級コース

学科リーダー 諸井 寿夫

初級23名、中級24名の受講生を迎える、日本が大好きの英国人講師マイケルと楽しい講座です。今期の新たな受講目的は、2020東京五輪、学校支援などのボランティアで、期待大です。



狭山の歴史学科

学科リーダー 石井 徹

「楽しく学び、仲間づくりをしよう」が当学科のモットーです。講義の合間に歴史に裏打ちされた語源や雑学談義など、高橋講師の講義は大変楽しく受講できると思います。狭山の歴史を学ぶ普通コースと、市内の石仏・文化財を学ぶ石仏・文化財コースがあります。



ジャーナル学科

学科リーダー 米田 香子

私たちは、情報発信に必要な知識と技術を学んでいます。身につく技能は、インタビュー・写真撮影・原稿執筆・パソコンでの編集等々。修了生220名は、講師が名づけた「地域ジャーナリスト」として、狭山のあちこちで「元気なまちづくり」に貢献しています!



トレッキング学科

学科リーダー 小林 常男

開講して3年目を迎えました。受講生の定員30名に35名と多数の応募がありました。全員入学しました。安全なトレッキングの基礎学習と野外実習はグループ単位で企画立案し、今後地域のリーダーを目指します。

## 「学んで活かす」実践の場とは 「さやま市民大学」の先にあるもの

「皆さんの相談室」それが「地域連携推進室」です!

当室は「学びの成果を地域社会の中で活かす仕組みづくり」という観点から開設しました。

その役割は

- ①修了生の人材バンク機能
- ②修了生を地域に繋げるコーディネート機能
- ③コミュニティ・サポートの組織づくりやボランティア活動支援…つまりインキュベーション機能
- ④修了生・受講生の相談業務、フォローアップ機能です…いわゆる、実践活動のつなぎ役です。

一般的な市民大学で、修了生の実践活動を念頭においた組織があるのは全国でも珍しく、「さやま市民大学」の理念を実現するために必要と考えております。連携の強化のために、産・学・公・民が連携することにより「協働型社会」の実現ができると考えます。これからは地域と大学との連携を強化し、修了生の活動の場を広げることに貢献していきますので、皆さま気楽にご相談してください。

地域連携推進室は、狭山元気プラザ2階です。

相談時間は、毎週木曜日と金曜日の午後1時30分から4時30分まで。相談員としてさやま市民大学・専門スタッフが対応します。

### シリーズ 活躍中!

修了生団体の活躍をシリーズで紹介していきます。

#### 「SSVC」とは?

名称：狭山市学校支援ボランティアセンター  
(School Support Volunteer Center)  
設立：平成19年4月1日  
規模：400名の支援者登録(平成26年4月現在)  
設立趣旨：地域の教育力を生かし、ボランティアとして小中学校の活動を支援し、学校教育の充実や地域に開かれた学校づくりが目的。

#### ここまで歩み

平成16年4月—「SSCC同窓会」有志により、学校支援活動を開始する。  
平成19年4月—ここまでの支援活動を評価され、正式に市よりSSVCとして委託される。



平成23年2月—「朝日のびのび教育賞」受賞

平成26年2月—狭山市教育委員会と共に「狭山市学校支援フォーラム」を開催する。

#### 支援ボランティア募集活動

是非 修了生の皆さんに応募頂き「学校支援」に参加して下さい!



地域連携推進室長  
高橋和子

## さやま市民大学 TOPICS

### 新たなスタート 入学式

さやま市民大学の第1回入学式が、4月12日13時30分から「狭山元気プラザ」にて行われました。受講生はまちづくり学部5学科、いきがい学部6学科の合計376名でした。式は3部編成で行われました。



#### 第1部

さやま協働ネット毛塚代表の開会のことばに始まり、仲川市長の挨拶・小山学長の式辞の後、東山市議会議長より祝辞を頂きました。

#### 第2部

特別講演「狭山市域の歴史を訪ねて」  
講師は元狭山市立博物館館長 高橋光昭氏でした。

#### 第3部

全体ガイダンス及び関係者の紹介と挨拶でした。

### 狭山市制施行60周年記念講演会 & 座談会「消えゆく生活文化の伝承とまちづくり」を開催

市制施行以前から人々の生活の中で営まれていた生活文化が、急激な都市化や家族形態の変化等により失われたり、失われつつあります。それらの生活文化を知る方々は高齢化し、今すぐに聞き取りしていくかなければ、残されない恐れがあります。

そこで、「さやま市民大学」では、それら「消えゆく生活文化」を掘り起こして語り伝え、次世代に残して行くことで、狭山市への愛着を深め、市民による元気なまちづくりにつなげていく事業に取り組むことになりました。その幕開けとなる企画として、7月10日市民交流センターにて、森まゆみさんの講演会、その森さんを囲んで仲川市長、広沢謙一さん、高橋光昭さん、4人で「狭山における伝承事業の意義について」の座談会を行いました。



\*特別講座「さやまの生活文化伝承講座」は、10月からの開講を予定しています。

### さやま市民大学同窓会総会と発足記念シンポジウムの開催

6月26日市民交流センターにて新たな「さやま市民大学同窓会」の発足総会が開催され諸井会長をはじめ新たな役員の選出と提案された議案に対する討議が行われ、議案書通りに決議されました。2部は演芸会、3部は交流会と続き盛り上りました。

7月23日に同じ市民交流センターで同窓会発足記念の「防災シンポジウム」を開催。武蔵野学院大学の島村特任教授の講演会、引き続きパネルディスカッションが行われました。テーマは「身近な災害にどう対応するか」で、さやま市民大学の中に「地域の防災リーダー養成学科」の開講が予定されていることが、大いに評価されました。



\*まちづくり学部「地域の防災リーダー養成学科」がスタートします。

8月13日から9月10日まで受講生を募集中です。10月2日から全9回の講義が始まります。

### 行事予定

- ・体育祭 9月27日(土) 狹山市民総合体育館
- ・学園祭 11月28日(金) ~30日(日) 狹山元気プラザ
- ・修了式 平成27年3月を予定

\*体育祭・学園祭は、一般の方もご来場いただけます！

## 創刊の主旨

「さやま市民大学 News」創刊号をお読みになっていかがですか。さやま市民大学は、これまでのSSCC(狭山シニア・コミュニティ・カレッジ)と狭山元気大学とが統合され、平成26年4月に開校しました。

「さやま市民大学 News」は受講生のみならず、広く市民の皆様に、さやま市民大学の存在を知っていただるために発刊しました。さあ、あなたもさやま市民大学の仲間になりませんか。



さやま市民大学のキャンパスは、旧狭山台北小学校を利用した施設として誕生した「狭山元気プラザ」の中になります。

校内には普通教室、パソコン室、地域連携推進室(6ページ参照)、調理室、保育室や修了生の実践的な学びの場となっているコミュニティカフェなどの学習環境を備えています。

### 狭山元気プラザ(さやま市民大学) アクセスマップ

西武新宿線 狹山市駅 東口より

西武バス [井戸窪経由 狹山台団地行] に乗車。  
[狭山台一丁目バス停] 下車、徒歩2分。



駐車台数に限りがあります。ご来場には公共交通機関の利用にご協力ください。

### 狭山元気プラザ(さやま市民大学) 入口案内図

徒歩、自転車、原付の方は西門から、一般車両、大型二輪の方は東門(狭山台図書館側)からお入りください。



北門は障害者および関係者車両専用のため進入できません。  
敷地内は、時速10Km以下で走行し、歩行者等に注意をしてください。

### 「さやま市民大学 News」創刊号 No.1

発行日：平成26年9月1日

発行：さやま市民大学

編集：さやま市民大学広報委員会

〒350-1304 狹山市狭山台1-21 狹山元気プラザ内

TEL.04-2968-6885 FAX.04-2959-2785

E-Mail : [shimindaigaku@sayama-kyoudou.or.jp](mailto:shimindaigaku@sayama-kyoudou.or.jp)

URL : <http://sayama-portal.jp/shimindaigaku/>

狭山市ポータルサイト「さやまルシェ」もご覧下さい。

スマートフォン用 QR コード

